



2月の聖句

あいは すべてをかんせいさせるきずなです
コロサイ3章14節

2月さんびか

ひかり ひかり こどもさんびか 55

つながる



今年度は僅か数回でしたが、教会の集会室をお借りして毎回6組限定で2歳児親子の皆さまと「ふたばルーム」の活動を楽しみました。ギターやシンセサイザーにあわせて手拍子しながら掛け合いの歌を歌い、挨拶や紹介タイム、手遊び、室内自由遊び、製作、体操、楽器遊び、外遊び等を楽しみました。最初はきょとん？と見ていただけの体操も回を重ねる毎に保育者の指先、つま先の動きまで一生懸命模倣しようとする2歳の子ども達の小さな変化を喜び合い、笑顔が広がりました。♪ここは、ここは♪との掛け合い歌を覚えて「♪ここは(幼稚園)、行く〜！」と喜び歌う、自宅での姿もお聴きし嬉しく思っています。初回は場所見知りで不安がっていた子ども達が2回目には自分の好きな遊びを楽しむようになり、場所、人、物、記憶等、誰かと、何かと、繰り返し繋がる大切さを改めて感じました。在園児卒園児、新入園児、ふたばルーム等での出会いに感謝の思いです。

さて、会の最後には大好きな絵本の時間。色々な絵本を読む中で「よくきたね」(松野正子/文・鎌田暢子/絵・福音館)を読んだ時のこと。この絵本は犬、猫、豚、熊、の親子が順番に1組、2見開きずつ出てきます。「おいでおいで ここまでおいで」と我が子と呼ぶと子ども達は温かな眼差しで見つめる母のもとへ歩み寄っていきます。ページを捲ると「よくきたね いいこだね」と母になめられたり、胸に抱かれ、安心しきっておっぱいを飲んでいたり、の繰り返し。最後には人の親子が描かれています。お母さんは小さく屈んで1歳くらいの子どもの向かって両手を出して待っています。「おいでおいで ここまでおいで」お母さんがよんでいます。子どもはまっすぐに母を見つめて、同じように両手を差し出し、右足は大地を踏みしめ、左足はしっかりと前にあげて歩いています。最後のページを捲ると母親の両腕にすっぽりと抱かれ、首に抱きつき、大きく口を開け、目を細めて喜んでいる子どもの姿が描かれています。「よくきた よくきた いいこ いいこ」このページを読んでいると、ふたばルームの子ども達が誰彼となく自然にお母さんにそっとうと抱きつくのです。この絵本を読み進める内に、お母さんが思わず膝に座っている我が子をそっとうと抱きしめる姿にも気づき、とても印象的でした。

今年度は誕生日感謝礼拝で毎月保護者から名前の由来を伺っています。一人一人の誕生の瞬間、名前の意味や込められた思いをお聴きする時、子ども達の命の尊さが心に響いてきます。命を授かると「よくきたね、私達を選んで生まれてきたんだね。ありがとう」と、神秘的な深い感動に包まれます。何かができるからいい子、ではなく、全人格そのもの、小さな身体で一生懸命に生きようとするあなたが愛おしく、こうして目の前にいること、この手で抱きしめられる幸せを、多くの人達がそのぬくもりと柔らかな肌に触れ、心に刻んでいることでしょう。

年主題「こころが満たされる」瞬間。赤ちゃんだった子ども達が運んできた愛は、神さまからの贈り物。その愛は、全てを完成させる絆です。コロナ禍だからこそ、誰かを思い、祈ること、で心の繋がりを大切に育んでいきたいものですね【園長】